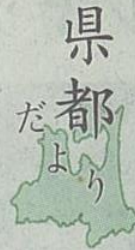




襲撃場面を想定して要人役（左から2人目）の警護体験をする参加者

警察の仕事に興味を持ってもらおうと、青森県警は8月29日から今月6日まで、大学生対象のインターシップを開催した。県出身の大学生12人が、県警察学校で現役の警察官に教わりながら、実際の業務に触れた。



インターシップは、警務、生活安全、刑事、交通、警備の5部門で1日ずつ実施。参加者は、白バイの引き起こし

大学生が警護、鑑識など体験 青森県警でインターン

や、架空の窃盗事件の鑑識作業などに取り組み、警察業務を一通り学んだ。

最終日の6日は、警護員の指導の下、要人の身辺警護を体験。物が投げ込まれたり、背後から襲われたりした際の守り方を、チームで相談しながら考えていた。

八戸学院大3年の藤元音羽さん(21)は、「実際に体験できて楽しかった。事件の演習では、刑事になった自分を想像でき、やりがいを感じた」と話した。

(堰端桃子)